

二年生 国語 学習プリント



二年 組 名前

古典 随筆「枕草子」 作者 清少納言

教科書 P 32 ～ 33

1 作者について、教科書の「作者」の説明を参考にして、まとめよう。

作者名	時代	仕えた人
-----	----	------

2 次の言葉を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書いて、歴史的仮名遣いを確認しよう。

- ① やうやう ( ) ( ) ( )
- ② 山ぎは ( ) ( ) ( )
- ③ 闇もなほ ( ) ( ) ( )
- ④ をかし ( ) ( ) ( )
- ⑤ 飛びちがひたる ( ) ( ) ( )
- ⑥ いと近ちかう ( ) ( ) ( )
- ⑦ 飛びいそぐさへ ( ) ( ) ( )
- ⑧ あはれなり ( ) ( ) ( )
- ⑨ 言いふべきにあらず ( ) ( ) ( )
- ⑩ 火ひ桶まけ ( ) ( ) ( )

3 次の語句の意味を、現代語訳を参考にしたり、辞書で調べたりして確認しよう。

① あけぼの		② やうやう	
③ さらなり		④ なほ	
⑤ をかし		⑥ いと	
⑦ あはれ		⑧ まいて	
⑨ つとめて		⑩ さらでも	
⑪ つきづきし		⑫ わろし	

○作者の四季の対するものの見方や感じ方に触れ、自分が感じる四季の趣と比べよう。

4 教科書下段の現代語訳を参考にして、作者の好きな時間帯と、好きなものや様子について、季節ごとにまとめよう。

季節	時間帯
春	明け方
夏	
秋	
冬	

  

好きな「風情がある」「趣がある」「趣深い」「よい」もの
・山ぎわが（ ）
・月が（ ）
・蛍が（ ）
・蛍が（ ）
・雨が（ ）
・鳥が（ ）
・雁などが（ ）
・日が（ ）
・雪が（ ）
・霜が（ ）
・たいそう寒いときに、（ ）

5 作者の表現のしかたや作品の特徴について、気付いたことや教科書の「出典」を参考にまとめよう。

子 草 枕
作者の表現のしかた・作品の特徴

📖 P 278 「古典の世界を広げる」も参考にしてみましょう。

6 「枕草子」を参考にして、自分の好きな時間帯や好きなものを、季節ごとに書き出してみよう。  
 (例：その季節らしい食べもの・行事・植物・動物・天候・身の回りのものなど。)

冬	秋	夏	春	季節
				時間帯
				好きなものや様子

7 作品の中に出てくる、次の漢字を書こう。

■	■
□	□
おもむき	むらさき
がある	だちたる
■	■
□	□
しも	ほたる
のいと白きも	の多く飛びちがひたる



二年生 国語 学習プリント



二年 組 名前

古典 随筆「枕草子」 作者 清少納言

教科書 P 32 ～ 33

1 作者について、教科書の「作者」の説明を参考にして、まとめよう。

作者名 清少納言	時代 平安時代	仕えた人 中宮定子
-------------	------------	--------------

2 次の言葉を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書いて、歴史的仮名遣いを確認しよう。

- ① やうやう (ようよう) (やまぎわ) (やみもなお) (おかし)
- (とびちがいたる) (いとちこう) (とびいそぐさえ)
- ⑤ 飛びちがひたる (いと近う) (飛びいそぐさへ)
- (あわれなり) (いうべきにあらず) (ひおけ)
- ⑧ あはれなり (言ふべきにあらず) (火桶)
- ⑨ 言ふべきにあらず
- ⑩ 火桶
- ② 山ぎは (闇もなほ) (をかし)
- ③ 闇もなほ
- ④ をかし

3 次の語句の意味を、現代語訳を参考にしたり、辞書で調べたりして確認しよう。

① あけぼの	明け方	② やうやう	だんだんと
③ さらなり	言うまでもない	④ なほ	やはり
⑤ をかし	いい・趣深い	⑥ いと	とても・たいそう
⑦ あはれ	おもしろい	⑧ まいて	まして
⑨ つとめて	早朝	⑩ さらでも	そうでなくても
⑪ つきづきし	似つかわしい	⑫ わろし	好ましくない

○作者の四季の対するものの見方や感じ方に触れ、自分が感じる四季の趣と比べよう。

4 教科書下段の現代語訳を参考にして、作者の好きな時間帯と、好きなものや様子について、季節ごとにまとめよう。

季節	時間帯	好きな「風情がある」「趣がある」「趣深い」「よい」もの
春	明け方	・山ぎわが（少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている様子）
夏	夜	・月が（出ている様子） ・蛍が（多く飛びかっている様子） ・蛍が（ほんの一、二匹ほのかに光って飛んでいく様子） ・雨が（降る様子）
秋	夕暮れ	・鳥が（ねぐらへ行くため、三、四羽、二、三羽などと飛び急ぐ様子） ・雁などが（列を作っているのが、たいそう小さく見える様子） ・日が（すっかり沈み、風の音や虫の音などがする様子）
冬	早朝	・雪が（降っている様子） ・霜が（真っ白な様子） ・たいそう寒いときに、（火を急いでおこして、炭を持っていく様子）

5 作者の表現のしかたや作品の特徴について、気付いたことや教科書の「出典」を参考にまとめよう。

枕 草 子	作者の表現のしかた・作品の特徴
	例：季節のよさを、一日の中の好きな時間帯から感じている。 例：一瞬の美しさが具体的に、想像しやすく表現されている。 例：簡潔な文章だが、鋭い視点から季節のよさが描かれている。

6 「枕草子」を参考にして、自分の好きな時間帯や好きなものを、季節ごとに書き出してみよう。  
 (例：その季節らしい食べもの・行事・植物・動物・天候・身の回りのものなど。)

冬	秋	夏	春	季節
自分の好きな時間帯を記入				時間帯
例：雪・霜柱・氷 鍋・おでん・こたつ ブルブルする様子・寂しさ	例：紅葉・運動会・ドライブ 栗・山菜料理・落ち葉 キュンとする気持ち・人恋しさ	例：花火・海・祭り・キャンプ バーベキュー・かき氷 ワクワクする気持ち・開放的	例：花見・卒業式・入学式 団子・ピクニック・筍(たけのこ) うきうきする気持ち・期待と不安	好きなものや様子

7 作品の中に出てくる、次の漢字を書こう。

■ 趣 おもむき	■ 紫 むらさき
がある	だちたる
■ 霜 しも	■ 蛍 ほたる
のいと白きも	の多く飛びちがひたる

季節を感じる気持ち・季節を感じる行事・「をかし」「わろし」を作文に活用。

例 春はうきうき。暖かくなって、期待と不安  
 が入り混じる季節。入学式や進級によつて、  
 新しい友だちができるかなつて。花見に一緒  
 に行く仲間とは、ずっと仲良くできるかなつ  
 て。そんなことを考えると、楽しいな。  
 夏はワクワク。もう暑くて暑くて、開放的  
 になつちやう季節。海へ行つて、どこまで泳  
 げるかなつて。お祭りに行つて、何を食べよ  
 うかなつて。そんなことを考えると、興奮す  
 るな。  
 秋はキユンキユン。少しずつ涼しくなつて  
 ちよつぴり切ない季節。紅葉狩りに行つて、  
 美しいものに囲まれたいなつて。栗を拾つて  
 おいしく食べたいなつて。そんなことを考え  
 ると、人恋しいな。  
 冬はブルブル。寒くて寒くて寂しくなる季  
 節。雪が積もつたら、みんなで遊びたいな。  
 こたつに入つて、お鍋をみんなで食べたいな  
 でも、寒すぎて外に出られないから、一人ほ  
 っちな。あ、あ、悲しいな。

。 、 、